

2022年7月15日

都道府県教育委員会教育長 様  
区市町村教育委員会教育長 様  
小学校・中学校・中等教育学校・  
特別支援学校・高等学校校長様  
英語担当指導主事 様  
外国語活動・英語科担当者 様

全国英語教育研究団体連合会（全英連）  
会長 博田英明  
（東京都立松が谷高等学校長）  
全英連佐賀大会実行委員会  
委員長 坂本康晴  
（佐賀県立厳木高等学校長）

## 第72回全国英語教育研究大会（全英連佐賀大会） オンライン開催 案内

コロナウイルス感染が世界中で広がり始めてから3年が過ぎ、昨年度の全英連山形大会がオンラインで開催され、また、多くの教職員の研修もその形態を変えて行われています。第72回全国英語教育研究大会（全英連佐賀大会）については、このコロナ感染の状況に不安を抱きながらも、全国の教職員の皆様に佐賀に来ていただける大会の準備を進めて参りました。しかし従来の集合型で開催するには、コロナウイルスがいまだに猛威を振るっており、収束の目処がたっておりません。そこで、オンラインによる発表の可能性を模索し、全国の皆様方と英語教育について語り合う機会を絶やさず、これからの英語教育に寄与できればとオンライン開催を決定いたしました。

世界が新型コロナウイルスのために一変した今、未来を切り拓くために、小・中・高の私たち教員一人一人に求められている指導力とは何か。学校教育の現場において、この問いを常に持ちながら、互いに実践と検証を重ね、自らの目標へ近づいていきたいと考えます。

なお、オンライン開催への変更に伴い、開催内容やプログラムに一部変更があることをご了解下さい。

※情報は今後ホームページで随時更新していきますので、定期的にご確認下さい。

### 記

#### 1 開催関係団体

主 催：全国英語教育研究団体連合会（全英連）  
後 援：文部科学省、外務省、アメリカ大使館、佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀市、  
佐賀市教育委員会、日本教育公務員弘済会佐賀支部  
大会運営：全英連佐賀大会実行委員会

2 目 的 「“Across the Borders” ～校種をつなぎ、未来を切り開くコミュニケーション能力を育む英語教育～」を大会テーマとして、小学校・中学校・高等学校の英語教育を連携したものとし、世界で活躍する児童生徒を育成するための英語教育の在り方を考える。

3 期 日 2022年11月14日（月）～18日（金）・19日（土）

4 会 場 オンラインによる開催  
【第1日：11月14日（月）～18日（金）】 オンデマンド開催  
【第2日：11月19日（土）】 Zoomによるオンライン開催

---

#### 全国理事会（大会前日）

オンラインによる開催

※ 詳細は後日全英連ホームページにてご連絡致します。

5 日 程

※ 当日はインターネット環境及び情報端末（パソコン・タブレット・スマートフォン等）を各自ご準備下さい。

第1日：11月14日（月）～18日（金）オンデマンド開催

記念講演

演題：「 未定 」

講師：東京外国語大学 投野 由紀夫 教授

小学校授業実演発表

発表者 佐賀大学教育学部附属小学校 牛尾 美穂 教諭

指導助言者 文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子 氏

中学校授業実演発表

発表者 佐賀大学教育学部附属中学校 合瀬 天規 教諭

指導助言者 佐賀大学 林 裕子 准教授

高等学校授業実演発表

発表者 佐賀県立佐賀西高等学校 横尾 彰乙 教諭

指導助言者 名古屋外国語大学外国語学部 太田 光春 教授

第2日：11月19日（土）Zoomによるオンライン開催

8:30～ 9:00 受付（動作確認）

9:00～ 9:20 開会

9:30～11:00 分科会第1部 14分科会

11:20～12:50 分科会第2部 14分科会

12:50～13:00 閉会

9:30～11:00 分科会第1部 14分科会

番号	校種	発表者	所属	テーマ	指導助言者
1	小学校	大石 由紀	嬉野市立大草野小学校 【佐賀県】	「英語を使って他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けた児童の育成～指導に生かす評価の在り方の研究を通して～」	中村 典生 (長崎大学)
	【概要】	言語活動の途中で中間指導を入れ、その後の活動をよりよいものにすると同時に、中間指導を生かして記録に残す評価ですべての児童が概ねB評価になるような指導を行っている。これらの実践から指導に生かす評価について紹介したい。			
2	中学校	合瀬 天規	【中学校授業実演者】 佐賀大学教育学部附属中学校 【佐賀県】	「他者との協働を通して、自らの考えを伝え合おうとする生徒の育成」	林 裕子 (佐賀大学)
	【概要】	小学校で培った素地や基礎、新しく学んだ知識や技能を適用させながら、目的や場面、状況等に応じて自分の考えを伝え合うことができる生徒の育成を目指しています。中学3年生の言語活動最終ゴールであるディベートに向けての取組について紹介します。			
3	中学校	富崎 彩	唐津市立高峰中学校 【佐賀県】	「人や社会とつながる良さを感じることでできる生徒の育成～小中のつながりを意識したSmall Talk活動を通して～」	中島 亨 (福岡教育大学)
	【概要】	唐津地区で小中のつながりを意識したSmall Talk活動を紹介します。2分程度、同じ話題で英会話できる力を身に付けさせたいと考えています。そのために、唐津地区で共通した、英会話を続けるためのコミュニケーションスキルを使ったSmall Talk活動を実践します。また、生徒の英会話への抵抗感の軽減、教師の話題のマンネリ化を防ぐために、小中のつながりを意識したSmall Talkの話題作りを目指します。			
4	中学校	岸田 尚子	伊万里市立山代中学校 【佐賀県】	「ふるさとの魅力を世界に発信できる生徒の育成を目指す受け手を意識した言語活動の研究」	福田 慎司 (福岡大学)
	【概要】	ふるさとの魅力を発信できる生徒の育成という地区の共通目標を達成するために、それぞれの学校の生徒の実態を踏まえて指導法や場の設定などを工夫した。学校独自の取り組みや一人一実践についての紹介をする。			
5	中学校	美山 淳子	神埼市立神埼中学校 【佐賀県】	「グローバル化に対応する力を身につけたGood Communicatorの育成を目指す指導法の研究」	太田 洋 (東京家政大学)
	【概要】	様々な話題に対する考えや感想及びその理由を、わかりやすい言葉と方法で相手に伝えることができる生徒を育てることを目指した。実践後に行ったアンケート（生徒3917名、教員延べ61名）を分析し、手立ての有効性について考察を行った。			
6	中学校	東 修平	鹿屋市立大始良中学校 【鹿児島県】	「グローバル社会で生きる資質・能力を身につけた生徒の育成～効果的な評価のあり方を通して～」	森 千鶴 (福岡教育大学)
	【概要】	新学習指導要領完全実施2年目となり、本県では学習指導方法の改善や生徒の学習意欲の向上を図り、資質・能力を高める令和時代の「スタンダード」となる効果的な学習評価を目指し、手探りで試行錯誤している状況である。「評価と指導の一体化を意識した授業設計」「3観点の評価問題」そして「パフォーマンス評価」について、今年もチーム鹿児島で思考し、実践してきた成果と課題を発表する。			
7	中学校	赤瀬 大介	那覇市立石田中学校 【沖縄県】	「主体的に学ぶ生徒の育成～話す書く表現活動を帯活動と交流学習をとおした授業で実践する単元計画の工夫を通して～」	長 加奈子 (福岡大学)
	【概要】	各単元における既習事項を帯活動と交流学習をとおして身につけさせるため、単元計画を工夫し、主体的に学ぶ生徒の育成を目指しています。また、既習事項を、「どのように活用すれば自分の意見等が表現できるか」を生徒に考えさせるため、交流活動を多く取り入れる期間を単元計画内に設定しました。「帯活動」や「交流活動」を通して、生徒が自分の「できること」「できるようになりたいこと」に自ら気付く、学習を進めていく態度の育成を目指しています。			
8	高校	田中 秀太郎	佐賀県立唐津東高等学校 【佐賀県】	「思考力・判断力・表現力の育成～自走化に向けた取り組み～」	築道 和明 (広島大学)
	【概要】	新学習指導要領では、予測困難な社会を生き抜くための思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりが求められる。学習者を導く「ティーチング」から、学習者と伴走する「コーチング」へ転換する指導法について研究することをねらいとする。			
9	高校	石橋 俊	佐賀県立佐賀東高等学校 【佐賀県】	「CLILとSDGs活動を通して英語力と社会性を育成」	麻生 雄治 (大分大学)
	【概要】	CLILという指導方法を用い、SDGs活動をTask活動に据えた授業展開とその結果を発表します。前任校の佐賀県立小城高等学校での実践研究を中心に、本校での実践研究の内容を交え、どのレベルにでも対応出来ることを提示したい。			
10	高校	学校発表	佐賀県立佐賀農業高等学校 【佐賀県】	「生徒の積極的な英語コミュニケーション能力の育成 ～農業高校でのSGH事業における生徒の変容とその後の取り組み～」	廣江 頭 (長崎大学)
	【概要】	本校は平成28年度から令和2年度までSGHに指定され、農業分野のグローバル・リーダー育成のための研究開発を行った。SGH事業を通じた生徒の変容と、SGH終了後の本校の現状と今後の課題について発表する。			
11	高校	山田 慎太郎	福岡県立香住丘高等学校 【福岡県】	「ディベートを通じた自律的・主体的英語学習者の育成」	太田 光春 (名古屋外国語大学)
	【概要】	本校普通科2年生「英語表現Ⅱ」の授業での英語ディベートを通して自律的・主体的英語学習者の育成を図る取組を紹介します。英語ディベートの過程で生徒が英語で何ができるようになったかを振り返り、英語学習に対する自己有用感を高め、教室外でも自律的・主体的に英語学習に取り組む生徒の育成を目指しています。			
12	高校	弓削 靖子	長崎県立佐世保商業高校 【長崎県】	「発問の工夫によって培われるコミュニケーション力」	吉武 正樹 (福岡教育大学)
	【概要】	本校の国際コミュニケーション学科では、外国語に特化した独自の教育活動を行っている。授業の中で発問を工夫することにより、生徒の思考力や表現力を伸ばし、主体的にコミュニケーションをとる姿勢を培う取り組みを行っている。授業が活性化することで深い読みに繋がりが、生徒のみならず教師の意識も変化してきている。また、行政と連携した地元での国際交流活動や、海外の学校との交流の実践報告も行う。			
13	高校	武石 涼太郎	大分県立玖珠美山高等学校 【大分県】	「3年間の多読指導を通じた4技能の育成～家庭学習と授業がリンクした指導モデル～」	横溝 紳一郎 (西南学院大学)
	【概要】	家庭学習と授業がリンクした体系的な多読指導について、次の3点を中心に報告する。①学習段階に応じたタスク設定や語彙の調整などの学習者支援。②授業でのフィードバックおよび表現活動。③4技能の向上および情意面への効果。			
14	高校	近藤 明子	宮崎県立延岡工業高等学校 【宮崎県】	「5領域の統合的な言語活動の実践報告～発信力の向上を目指して～」	青柳 達也 (佐賀女子短期大学)
	【概要】	高校での新課程元年となる今年、5領域を統合的に扱いながら、発信力向上を目指した授業を実践しました。その内容を新しい評価方法とともにお伝えします。何のために英語を学ぶのか、実践報告を通して一緒に考えていただけたら幸いです。			

11:20～12:50 分科会第2部 14分科会

番号	校種	発表者	所属	テーマ	指導助言者
15	小学校	牛尾 美穂	(小学校授業実演者) 佐賀大学教育学部附属小学校 【佐賀県】	「思いをのせたやり取りで他者とつながろうとする児童を育てる外国語科の授業づくり～伝えるための工夫に気付かせる体験の積み重ねを通して～」	直山 木綿子 (文部科学省)
【概要】	伝えるための工夫をしながら自分の考えや気持ちを伝え合う児童の育成を目指して実践を重ねている。他者に配慮しながら内容や表現の仕方を変えていくことの有効性について体験を通じて学び、他者とつながる楽しさを感じる授業づくりを提案したい。				
16	中学校	力武 千佳	嬉野市立嬉野中学校 【佐賀県】	「伝え合うことを意識した表現活動の工夫」	森 千鶴 (福岡教育大学)
【概要】	「プレゼンテーション」と「やり取り」を通して伝え合うことを意識した表現活動に取り組んだ本地区の実践を紹介します。生徒が「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」を自らに問う場面を設定し、課題に対して発信する活動を行い、「発信者と受信者が、学んだこと、経験や自分の考えを結びつけて、即興での質疑応答や感想を述べることのできる生徒の育成」を目指した授業実践例です。				
17	中学校	大槻 寿子	佐賀市立富士中学校 【佐賀県】	“Developing students to be independent learners of English” 【in English】	長 加奈子 (福岡大学)
【概要】	We're working on unit plans centered on performance testing in order to develop "the ability to communicate according to the purpose and circumstances". We feel that if students could feel a sense of accomplishment from the performance tests, they would develop a proactive attitude toward learning English. To help us achieve our goal, we created a study handbook to share the unit plan, test outline, and evaluation criteria. We'll show you some examples of our challenge.				
18	中学校	若林 映江	直方市立直方第二中学校 【福岡県】	「確かな学力を身に付けた児童生徒を育てる小中連携～ジョイント・カリキュラムに基づく授業づくりを中心に～」	林 裕子 (佐賀大学)
【概要】	グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーションは、生涯にわたるさまざまな場面で必要とされている。本校区の英語教育では、小学校から中学校卒業までの9年間の中で、学力を児童生徒に確実に身に付けさせるため、外国語科における系統性や重点単元を整理したジョイント・カリキュラムを作成している。その活用を通じた小中での統一した授業づくりや質的向上を図る取組について紹介する。				
19	中学校	財部 裕一郎	熊本大学教育学部附属中学校 【熊本県】	「英語で互いの考えなどを理解し伝え合える生徒の育成を目指して～バックワードデザインによる授業設計を通して～」	太田 洋 (東京家政大学)
【概要】	1. 単元あるいは学期・学年のゴールを意識したバックワードデザインによる授業設計。2. 互いの思いや考えを伝え合うための言語活動の工夫。3. 生徒が自身の伸びを感じ、モチベーションを高める振り返りの工夫、という3つの視点から、分科会タイトルである研究主題を達成するために取り組んできた実践を発表します。				
20	中学校	山口 直美	佐世保市立清水中学校 【長崎県】	「題材を通して思考を深める授業づくり～表現力の向上を目指して～」	廣江 顕 (長崎大学)
【概要】	教科書の題材を用いて、生徒の思考を促す単元構成と発問の工夫を試み表現の場を積み重ねることによって表現力の育成を図る取組。学習活動を通じた様々なインプット活動を単元末のリテリングと自己表現活動につなげた実践例を紹介する。				
21	中学校	山本 和史	中津市立緑ヶ丘中学校 【大分県】	「ALTと取り組むスピーキング力の向上を目指した指導」	中村 典生 (長崎大学)
【概要】	中津市では、市教委の指導の下、市内ALT全員でテストの題材やルーブリックを作成し、該当校のJTEと複数のALTでテストを実施している。本分科会では、スピーキングテストの実施の実際や、生徒の変容について発表する。				
22	中学校	山本 延久	延岡市立恒富中学校 【宮崎県】	「So many people, So many ways, Not only one correct Answer. ～伝えたい気持ちを表現につなげる～」	福田 慎司 (福岡大学)
【概要】	小学校の外国語活動で培った学びを効果的に中学校につなぐことができるような帯学習、教材づくりや場面設定等の工夫を図りながら、学んだ英語を用いて、様々な場面で活用できる生徒、伝えたい気持ちをもって、表現につなげることができる生徒の育成を掲げ、実践を行った。				
23	高校	横尾 彰乙	(高等学校授業実演者) 佐賀県立佐賀西高等学校 【佐賀県】	「Critical thinkingを育成する、授業中の発問の工夫」	太田 光春 (名古屋外国語大学)
【概要】	主体的・対話的で深い学びを実現するためには、生徒のCritical thinking能力の向上が重要だと考え、授業での発問やフィードバックの質の向上に努めている。分科会ではBloomの分類法を踏まえ、生徒の学びの変化等について報告する。				
24	高校	山口 司	弘学館中学校・高等学校 【佐賀県】	「協働学習を通して運用能力と市民性を育む～伸びた生徒は何を体験していたのか～」 【in English】	吉武 正樹 (福岡教育大学)
【概要】	生徒の進路希望を実現するのは大前提で、コミュニカティブな授業も続けたい。あわよくばグローバルシティズンシップも育てたい。そんな欲張りな教師と学んだ生徒が、授業で何を思い何を体験していたかを探る。				
25	高校	圓入 牧子	佐賀県立佐賀商業高等学校 【佐賀県】	「ICTを用いた、相手に伝わる魅力的なプレゼンテーションを目指して～自己評価・相互評価を取り入れた活動の実践と課題～」	青柳 達也 (佐賀女子短期大学)
【概要】	本校グローバルビジネス科の目標に、「グローバル社会で活躍できる生徒の育成」があります。卒業後も様々な場面で必要とされるであろう、魅力的なプレゼンテーションができる力の育成に向け、英語科として取り組んでいる内容について発表します。				
26	高校	宮本 英明	真和中学・高等学校 【熊本県】	「アウトプットを意識したアクティブラーニングの実践と考察」	中島 亨 (福岡教育大学)
【概要】	アウトプットを意識した語彙・構文指導を行うことでリーディングやリスニング能力を向上させるアクティブラーニングの理論と実践例を紹介します。文脈から未知語を推測するメソッドの効果と課題を共有することで、この教授法の可能性をさらに広げたいと思います。高1の導入期から入試対策まで取り入れられるアイデアや、波及効果考えた考査問題の作成についても取り上げます。				
27	高校	山元 絡	鹿児島県立鹿屋高等学校 【鹿児島県】	指導と評価の一体化を目指したリスニング指導	麻生 雄治 (大分大学)
【概要】	センター試験に比べ、共通テストではリスニングの重要度並びに難易度が上昇しました。新学習指導要領に則った、効果的なリスニング指導や「初見の英語」を用いての評価方法を着しやす実践を交えながら紹介します。				
28	高校	神山 若夏	沖縄県立知念高等学校 【沖縄県】	「書く」活動における自己調整場面を観察する取組～ハイブリッド型ポートフォリオを活用した自律的学習への工夫～」	築道 和明 (広島大学)
【概要】	ハイブリッド型ポートフォリオ(紙ワークシートとClass Notebookを併用)を活用した授業及び評価方法の研究を行った。ICTツール [Answer Box Creator Z] で振り返りシートとライティング原稿を読み取り、そのデータから生徒が自分自身の「学習内容の記録」と「学習評価の記録」を残すポートフォリオを作成することに取り組んだ。その活動を通して教師による自己調整場面の多面的な観察方法を提案する。				

## 6 会 費

一般参加者 3,000 円 小学校教員 2,000 円 学 生 1,500 円

※ 公平性を保つため、一人 1 I Dとします。団体での参加および視聴は控えてください。

## 7 参加申し込みおよび会費納入方法

- 1) 申込方法 全英連佐賀大会ホームページ (<https://www.zen-ei-ren-saga2022.jp/>) より、事前申し込み (ホームページは7月末オープン予定)  
(オンライン開催のため、当日の参加受付はありません。)
- 2) 申込開始 令和4年9月1日(木) 午前9時より
- 3) 申込締切 令和4年10月14日(金) 午後5時まで
- 4) 会費納入方法 下記の口座に銀行振込またはクレジットカードにて (振込手数料は参加者が負担)  
みずほ銀行 東武支店 当座 8200505 東武トップツアーズ株式会社
- 5) 会費納入期限 令和4年10月28日(金) 午後5時
- 6) キャンセルについて 参加費納入後のキャンセルはできませんので、ご注意ください。
- 7) 返金について 当日の不参加や、機器のトラブル等による接続不可の際にも返金はいたしません。

## 8 参加方法

- 1) 参加者の準備 インターネット環境及び、パソコン、タブレット、スマートフォン等の端末を用意してください。
- 2) 大会資料 メールにて通知される web サイトから資料データを事前ダウンロードしてください。
- 3) 参加方法 アプリとして「Zoom」を使用します。  
大会約1週間前に申込時に登録いただいたアドレスにメールにてURL等を送ります。当日は、そのURLからアクセスしてください。  
なお、通知されたURL等の情報は、他の人には伝えないようにお願いします。

## 9 大会紀要予約受付

『大会紀要』(1, 500円送料込) をご希望の方は、前述ウェブサイトでお申し込みください。『紀要』がお手元に届くのは、2023年3月頃になります。(DVDの販売はしません。)

## 10 著作権・肖像権・知的財産権について

本大会の記念講演、授業実演発表、分科会発表において、講演者・発表者が提供するすべての知的財産 (講演内容、発表内容、論文データ等) 権、及び肖像権、その他の一切の権利は、全英連及び講演者・発表者に帰属します。

## 11 そ の 他

- 1) 総会は紙上開催。全国理事会は、オンライン開催となります。(詳細は後日お知らせします。)
- 2) 追加、変更等については、全英連佐賀大会ホームページで随時お知らせします。

## 12 連絡先

- 1) 東武トップツアーズ(株) 佐賀支店 (第72回全英連佐賀大会担当 大島)  
〒840-0801 佐賀県佐賀市駅前中央1丁目4番8号太陽生命佐賀ビル8階  
TEL : 0952-26-1131 FAX : 0952-29-6005
  
- 2) 全英連佐賀大会実行委員会  
(事務局 佐賀県立武雄高等学校 事務局長 栗山 耕次 (教諭))